

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道474号 三遠南信自動車道 飯喬道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局																						
起終点	自：長野県飯田市山本 至：長野県下伊那郡喬木村氏乗	延長	22.1km																								
事業概要	<p>一般国道474号三遠南信自動車道は、長野県飯田市を起点とし、静岡県浜松市に至る延長約100kmの高規格道路である。</p> <p>本事業の一般国道474号三遠南信自動車道飯喬道路は、長野県飯田市山本から下伊那郡喬木村氏乗に至る延長22.1kmの自動車専用道路であり、広域ネットワークの構築、災害に強い道路機能の確保、救急医療活動の支援、地域活性化の支援を主な目的として事業を推進している。</p>																										
H4年度事業化	—	H7年度用地着手	H10年度工事着手																								
全体事業費	1,674億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約87%	供用済延長	14.6km																						
計画交通量	7,600台/日																										
費用対効果 分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">B/C</td> <td style="width: 10%;">1.3</td> <td style="width: 10%;">(事業全体)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(1.2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(残事業)</td> <td>2.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(2.0)</td> <td></td> </tr> </table>	B/C	1.3	(事業全体)		(1.2)		(残事業)	2.6			(2.0)		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">総費用</td> <td style="width: 10%;">(残事業)/(事業全体)</td> </tr> <tr> <td>1,376/7,952億円</td> <td>3,534/10,142億円</td> </tr> <tr> <td>事業費：1,138/7,346億円</td> <td>走行時間短縮便益：3,292/9,346億円</td> </tr> <tr> <td>維持管理費：216/502億円</td> <td>走行経費減少便益：208/717億円</td> </tr> <tr> <td>更新費：23/104億円</td> <td>交通事故減少便益：34/79億円</td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/(事業全体)	1,376/7,952億円	3,534/10,142億円	事業費：1,138/7,346億円	走行時間短縮便益：3,292/9,346億円	維持管理費：216/502億円	走行経費減少便益：208/717億円	更新費：23/104億円	交通事故減少便益：34/79億円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">基準年</td> <td style="width: 10%;">令和4年</td> </tr> </table>	基準年	令和4年
B/C	1.3	(事業全体)																									
	(1.2)																										
(残事業)	2.6																										
	(2.0)																										
総費用	(残事業)/(事業全体)																										
1,376/7,952億円	3,534/10,142億円																										
事業費：1,138/7,346億円	走行時間短縮便益：3,292/9,346億円																										
維持管理費：216/502億円	走行経費減少便益：208/717億円																										
更新費：23/104億円	交通事故減少便益：34/79億円																										
基準年	令和4年																										
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量変動：B/C=1.1~1.4(交通量 ±10%) 【残事業】 B/C=2.3~2.8(交通量 ±10%)</p> <p>事業費変動：B/C=1.3~1.3(事業費 ±10%) B/C=2.4~2.8(事業費 ±10%)</p> <p>事業期間変動：B/C=1.2~1.3(事業期間±20%) B/C=2.5~2.6(事業期間±20%)</p>																										
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並行区間等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・利便性の向上が期待できるバス路線(信南交通)が存在する。 <p>②国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに拠点都市間を高規格道路で連絡するルートを構成する。 ・隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。 ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる。 <p>③個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携プロジェクト(第2次三遠南信地域連携ビジョン)を支援する。 ・アクセスが向上する主要な観光地(天龍峡・天竜川下り等)が存在する。 <p>④安全で安心できる暮らしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設(飯田市立病院)へのアクセス向上が見込まれる。 <p>⑤災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県地域防災計画(R3.12)に第一次緊急輸送路として位置づけられている。 ・緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。 ・並行区間等の事前通行規制区間の代替路線を形成する。 <p>⑥地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 <p>⑦生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 <p>⑧他のプロジェクトとの関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機関との連携プログラム(南信州リニア未来ビジョン)に位置づけられている。 																										

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

三遠南信道路建設促進期成同盟会から早期整備を要望

長野県知事の意見：

本事業は、広域ネットワークの構築、災害に強い道路機能の確保、救急医療活動の支援、地域活性化に寄与する極めて重要な事業です。

ついては、事業を継続し、積極的な予算確保により、早期開通を図るよう強く要望します。

また、事業の実施にあたっては、一層のコスト縮減に努められるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針（原案）は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・下伊那地域のうち、唯一、旧上村・旧南信濃村は、飯田市中心部までの所要時間が60分以上必要である。

・旧上村と旧南信濃村は、通行不能区間や雨量等事前通行規制区間に囲まれ、規制発生時には飯田市中心部へのアクセスが困難である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率は約87%、用地取得率は100%。（令和4年3月末時点）

・飯田山本IC～天龍峡IC間（延長7.2km）は、平成20年度に暫定2車線供用。

・天龍峡IC～龍江IC間（延長4.0km）は、令和元年度に2車線供用。

・龍江IC～飯田上久堅・喬木富田IC間（延長3.4km）は、平成29年度に2車線供用。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・飯田上久堅・喬木富田IC～喬木IC間（延長7.5km）について早期供用を目指して整備を推進する。

施設の構造や工法の変更等

・3次元モデル（BIM/CIM）を構築・活用することで、事業の効率化・高度化を図っていく。

・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

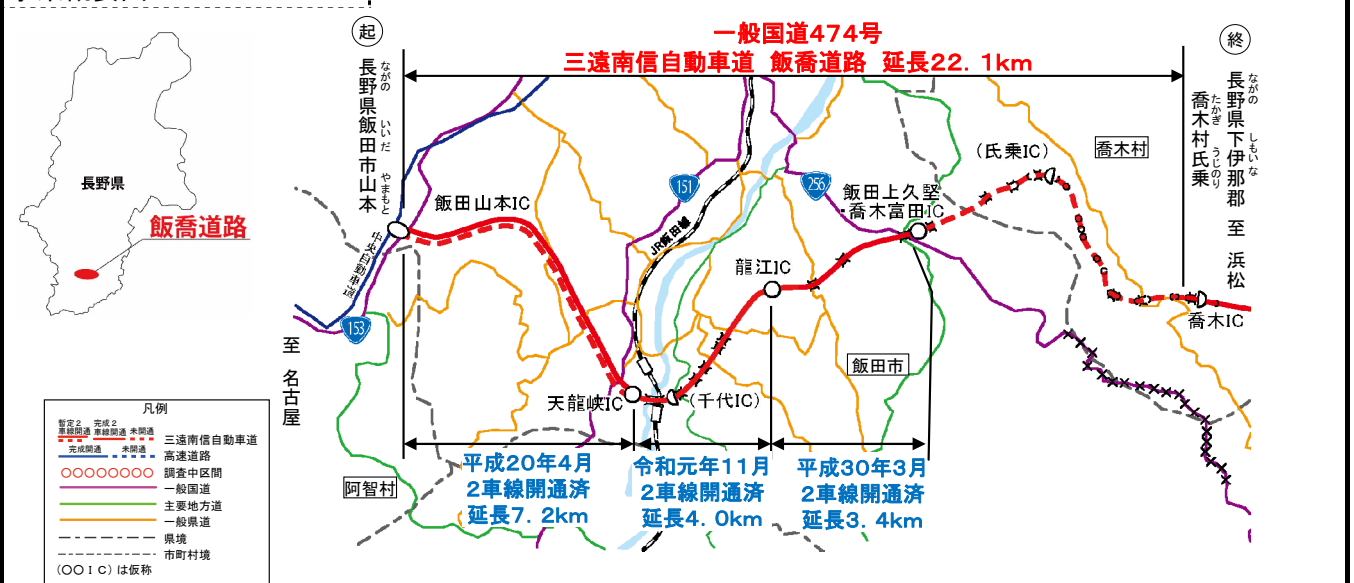
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。